

2024年9月26日

クラウドファンディングに挑戦します。

中津学園建替プロジェクト応援団

洋画家 佐伯祐三の生家で

**障害のある子どもと地域が一緒になってつくる「アート」をいかした拠点と
日本最初期のセツルメント史料や再現模型のあるギャラリーをつくりたい**

この度、佐伯祐正・祐三兄弟の生家「光徳寺善隣館」の建替えに伴って、大学などのアートや福祉、建築などの専門家や地域に関わる団体や法人によって応援団を結成することになりました。目的は、建替を機に兄の佐伯祐正の「社会福祉の心」と弟の祐三の「アートの心」を受け継ぐ拠点として生まれ変わらせる活動を行うものです。

具体的には、中津学園の建て替えに併せて、次の目的を達成したいと考えています。

1 : 地域の子どもたちにアートにふれあい、楽しめる場をつくる

佐伯祐正と祐三の意志を引き継ぎ「社会福祉の心とアートを楽しめる場」を新しい建物でも現代に甦らせたいと考えています。具体的には新しい建物の1階にクラフト室をつくります。そこで障がい児や地域の子どもたちが絵を描き、工作ができる機会を作ります。絵や工作を教えるボランティアを募りサークルを結成し、子どもたちにアートにふれあう楽しさを伝えたいと考えています。

2 : 佐伯祐正と祐三の業績を伝える取り組みを行う

その1 : 入り口にメモリアルウォールを設置したい。

佐伯祐正・祐三の業績を伝える「メモリアルウォール」を設置します。場所は、入り口通路の側面とし、訪れる方にご覧いただけるようにします。また、障がい児や地域の子どもたちが作った作品やイベントの案内も掲示します。

その2 : 佐伯祐正と祐三の時代から現代までのアーカイブギャラリーを設置します。

佐伯家には祐正と祐三の時代の写真、祐正や祐三がパリから送った手紙、当時の建築図面など貴重な資料がたくさんあり、福祉史や美術史の側面から見ても大変貴重なものです。紙ベースの写真、絵葉書、図面等が保管されていますが、今回デジタル化するなどアーカイブに整理し、ギャラリーを設置します。

その3 : 佐伯祐三と祐正の時代の施設とまちを模型で再現したい

アーカイブ資料をもとに、当時の善隣館を含む施設の図面や模型、大阪市北区中津付近の様子を模型等で再現します。

3 : 地域に開かれた交流できる場をつくる

その1 : 地域の人々と（仮称）サエキド・マルシェを開催します。

エントランスから交流広場にかけては、不定期に地域の人々を集めてマルシェを開催する予定です。不定期ですが地域と協働し雑貨、飲食を販売し、交流する機会を持ちます。

その2：高潮等非常事態時の防災機能を屋上に整備したい

中津学園は淀川に近接し家屋倒壊等氾濫想定区域に指定されています。高潮等非常事態が発生した際に建物の屋上に子どもたちや地域の障がいのある方々が避難できるよう、防災機能（雨水利用設備等）を整備します。

4：これら情報を発信し、広く皆さんに知ってもらえる場所として発展させる

新しいホームページを作り、中津学園の紹介、見学会や各種イベントの案内を行います。竣工後は、オープニングイベントの開催、模型展示、その他写真・文書等のお披露目会などを行う予定であり、ホームページ上で発信予定です。

<これからのスケジュール>

クラウドファンディングの募集は下記から行う予定です。

募集期間：2024年11月1日～12月16日

<https://camp-fire.jp/projects/758268/view>

ぜひ、情報拡散よろしくお願いいたします。

関係者からのコメント

渡辺祐子園長（中津学園）からのコメント：

新しい中津学園園舎の建替えが始まりました。建築費の高騰が続く中で、子どもたちが安心・安全に暮らすことが出来る住処を作るべく関係者一同、奮闘を重ねる毎日です。今回の初めて試みるクラウドファンディングのご案内を同封させて頂きました。是非皆様のお知り合いの方々にも、広く情報をお伝え頂ければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

寺川政司准教授（近畿大学）からのコメント：

「たえず種を蒔けよ、たとい鳥が啄むも」これは、うまくいかなくとも、まずは始める大切さを示す施設の思いを表しています。佐伯兄弟は、目につきにくい人や物を大切にしてきました。設立から100年。兄弟の息吹を「アート×障害児×地域」でつむぐ新しい居場所を作ることになりました。新しい歴史を作る取組みに皆さんとご一緒できれば幸いです。